

**Q1** 上のお兄ちゃん（4歳）に、高原さんが仰っていた“私の最高の価値観”を伝えようと注意しても、ちっとも伝わりません。「分かった?」と聞いても「分からへん」と言います。男の子はそんなものだと思うのですが、男の子の育て方のコツはありますか?

**A** すごく具体的で、身につまされる内容です。先程も触れましたが、大人が使っている言葉は、自分が思っている以上に抽象的な事が多いのです。例えば、「イジメしちゃダメ」「他人の物を取ったらダメ」「人を叩いたらダメ」。それを言ったらパツと絵が浮かぶのは大人だから。いじめや人を困らせたりするのがどんなに悪い事かというのは、やはり物語として語らないと伝わらないと思います。

以前も話した事がありますが、誰が見てもすぐに私の少年時代だと分かる、私をモデルにした紙芝居を作りました。実は幼い頃に、目の不自由なおばあさんがやってる近所の駄菓子屋で万引きした事があったんです。その頃は10円で色んな物が買えました。赤い箱に入った干しぶどうのお菓子が何とも美味しそうで、たまらなく欲しくなってしまって、おばあさんが向こう向いてる間に1個取ってしまったんです。

私は小学1年生の時から、日曜学校で聖書のお話を聞いていました。「人は見ていなくても、神さまは見ているよ」というようなお話をいつも聞いていたので、それから苦しくて苦しくてたまらない。干しぶどうを食べても美味しいとは思わない。とうとう、ケリのつけ方として、そーっと駄菓子屋に忍び込んだというか、おばあさんが奥に行っている時に10円を棚に置いて帰った。

「私がしました。ごめんなさい」と言う勇氣はなかったんですね。本当は「取った物を弁償したらそれで済むでしょ」ではなく、取るという行為そのものがいけないから、これは十分ではありません。それをして少しは軽くなったけど、勇氣がなかったという話を描いたんです。

それが終わった後で、末っ子の女の子が「お父さん、私、同じマンションに住んでいる同級生の（その時は幼稚園だったんですが）クマの形をした消しゴムを取っちゃった。あの子が一生懸命探している時、ポケットに入れて取っちゃった。今の紙芝居では、ただ返せばいいんじゃないかと、謝らなきゃいけないと言ってたから、明日そうしたいと思います。」それで手紙を書いていました。人の手紙を見るのはダメなんですけど、この際いいかと思って、破れないようにそーっと見ました。

「〇〇ちゃん、消しゴム取ってごめんなさい。」そして、自分がワーッと泣いている絵。中に、返す消しゴムと自分のお気に入りの消しゴム（これは償いという意味でしょうか）が入っていました。

「良かったなあ」と思ったら、長男が「お父さん、お話があります。」「えっ?! おまえも?」コンビニに行った時、床にお菓子の箱が落ちていた。棚にあるのを取るのは万引き。地面に落ちているのを拾ったら、これは拾い物。棚にあるのじゃなくて、地面に落ちているのを拾って店を出た。それで、店のおじさんにすごく怒られたんだけど、今「ごめんなさい」を言ってなかった事を思い出した。「だから明日、ごめんなさいって言います。」「そうか。悔い改めたら、神さまは赦して下さるからね」と話したんですね。

そしたら次男が「お父さん、お話があります。」「おまえもかっ!!」ウチ3人子供がいて、3人とも万引きか? 「ずいぶん前の話なんですけど…、去年かおととしか忘れた。」付属でカードが付いているお菓子があって、その中に、すごく値打ちのあるレアカードがある。何のカードかは、お菓子を買ってむかないと分からない。いつでも手に入るような、出回っているカードは欲しくないんです。

それを買に行き、片端からむいたって。「違う。これも違う。これ、当り！」で、当たりのやつを買ったけど、今にして思うとそれは悪い事だったと。「今にして思う?! その時思えや！」みたいな。今川駅の向かいにあるあのスーパー。謝りに行きました。

どれくらい悪い事をしたのかというのは、「ごめんなさい」と心で思っているんじゃないで、謝りに行く時に初めて分かるのです。謝りに行く時、どんなに気が重い事か。どれだけこっぴどく叱られるか、怒られるだろうか…。だけど、そういう事に・嫌な事に向き合っていく。そこで初めて「悪い事したら、後で支払わなければならないツケって、こんなに重いのか」という事を学ぶのです。彼らがそうしたいと思うようになったのは物語を聞いた後でした。

紙芝居を見せる前にも「盗みはいけない」と口では言っているんですよ。だけど、それでは通じてない。少年時代の私が万引きをしまして、その結果、どんなに苦しんだか・後で嫌な思いをしたか・苦々しい思いが残って、それを取り除くためにはどうしなければならなかったのか。それを物語の中で共感していった時、「私にも思い当たる節がある。」「同じ事をしてたのに、全然そう思ってたやん。そう思ふべき事なんや」と腑に落ちる。そうして初めて価値観が伝わるんです。だから「悪い事しちゃダメ」「いじめたらダメ」「言いつけをよく聞きなさい」「暴力反対」というような抽象的な注意ではなく、物語、出来れば自分の体験談は、すごく有効な事だと思います。

**Q2** お薦めの絵本などを教えて下さい。

**A** すごくたくさんあります。私は大人になってからも、絵本をずっと読んでいます。私の好きな臨床心理者に河合隼雄（かわい はやお）という人がいて、臨床心理士という資格を作りました。もう亡くなりましたが、色んな人をカウンセリングした京都学派・ユング派です。彼には、絵本から心理を解いている大人向けの本があって、これはめっちゃくちゃ深い。人間理解の手がかりとして、随分参考になりました。

たとえばヨーロッパの物語には、王子様が怪獣を倒すというのがやたらとあります。王子様がものすごい化け物と戦って退治する。そして、最終的にお姫さまと結婚する。そんな話がワンパターンで何十種類もある。なぜヨーロッパでそんな話が尽きないのかを、絵本や童話の話を使って分析しているのです。

ヨーロッパの親子関係では、お父さんは昭和のお父さんみたい。今のお父さんは、すごく物分かりが良くて優しいというイメージが多いと思いますが、ヨーロッパの親子関係での父親は権威です。実は、怪獣とはお父さんの事で、自分が乗り越えていかなければならないもの。結婚するというのは、大人になるという事。子供をやめて一人前になって行く時、どうしても乗り越えないといけないのが父との対決なのです。そういう図式で、色んな怪獣退治の解説を物語で行うのですが、思い当たる事ばかり。それを読んだ時「絵本って、深いなあ…!」

絵本に興味ない方は、まずその本からどう? 河合隼雄の『[絵本を読む](#)』。本当に参考になりました。私が読んでない絵本が、世の中にこんなにあるのか! 本は私の病気。もう活字中毒で、今でも最低月30冊は読んでます。それは私にとっては苦じゃない。昨日も講演会終わってから1冊半読み上げて来ました。それは私のストレス解消なんです。絵本というジャンルは知らなかったのですが、彼が紹介している色んな本を見ると、人間洞察が深い。

寓話というという形で語っていて、寓話だから作り話。でも、事実を作り話にする方が、事実肉薄できるという事があります。例えば「自分の殻に閉じこもり、世の中に出て行くのが怖くて、嫌になっている青年がいました」と書くよりも、「ある朝、一人の青年が起きてみると、大きな虫になっていました。」

カフカの小説『変身』。その方が伝わらへん？ 巨大な芋虫になっているから、コミュニケーション取られへん。それはあり得ない事だけど、そういう表現を取る事によって、「殻に閉じこもって、通用しなくなって、もうダメ…」という青年の心理描写がもっと伝わりませんかね。  
とにかく、そういう意味で絵本は深いんです。

カフカはやめといた方がいいと思います。暗いから。彼は絶望の人で、ある人が言いました。「絶望名人カフカ」。絶望する言葉にかけて、彼に勝る人はいません。絶望したい人は読んで。絶望したくない。

子供たちが読んでいいなあという本。絵本なら、クリスチャンが描いた本で『たいせつなきみ』。是非お勧めします。自分の価値を、比較によらないで見出して行くというお話です。

私たちは生まれた時から勝ち負けで生きている。生まれた瞬間に「隣の子は 3400 グラムなのに、この子は 2900 グラム」から始まって。「お姉ちゃんは 1 歳で話し出したのに、弟は 3 歳になっても二言三言しか喋れへん」とか比較する。比べたら、必ず優劣がつきます。子供の時から勝ち組と負け組になってしまい、いい評価をもらっている人はより自信を持って、いい評価をもらえなかった人は「私は生きている価値があるのか?」と、ずっと沈んで行く。

そういう事から解放されるためにどうしたらいいのかを、見事なストーリーで描いた絵本。  
これは、はっきり言って、大人が読むべき絵本です。

大人でも、実は自分に自信がない人ってたくさんいます。「自信ありますよ」って言う人がいたら、それはどうかなあ。なんか、友達になりたいと思えへんわ。正直じゃないから。

私は「自分が自分でいいかなあ」と思い出したのは、ここ 2・3 年です。自分が自分であるという事を、ようやく受け入れる事ができるようになった。50 年かかりました。それまではやっぱり、競い合って・勝って・良かったという確認の仕方をしていたと思うんです。

本当の意味で自信を持っている人というのは、絶対に他の人に劣等感を与えませんわ。他の人に引け目や劣等感を感じさせる自信というのは、その価値体系の中に優劣が入っていると思います。

『たいせつなきみ』はパンチ・ネロという醜い人形の話。人形だけが住んでいる町があって、「カッコイイ」「素敵」「かわいい」「走りが早い」「物覚えがいい」という人形は金色のシールを貼ってもらえる。「遅れてる」「ずれてる」「何やっても失敗」の人形は灰色のシールが貼られる。そのシールは取れない。パンチ・ネロは全身灰色だらけ。そこに、いいシールも悪いシールも絶対貼れないという、ルーシーという女の子の人形が出てきます。「君、どうして他人の評価に左右されないで、シールが付かないの?」「それは私の造り主、人形師のエリの所に行ってお話しするからよ。」

実は解き明かしがあって、パンチ・ネロはイタリア語で「背骨が弓のように曲がっている男」の事。ルーシーは「光」という意味。光の単位はルクス。光という言葉から来ている。エリはヘブライ語で「神」。エリと会って、ある言葉を言われ「そうか!」と納得して、シールが全部バラバラ落ちてしまいます。ネタバレになるのでやめますが、これは、まず読んで欲しい第 1 番目の本です。

『たいせつなきみ』シリーズは 3 冊出ていて、これは是非お勧めです。

もう少し大きくなると『ナルニア国物語』。わが家ではこれ、読みましたねえ。くれぐれも 1 回で読まない事。小分けにする。「ここ、いいとこ! 次行きたい!」そこで止める。寝る前にはやらない方がいいかもしれない。興奮して寝られへん。眠気を誘うような話じゃないです。私たちは金曜日にこれを読みました。C・S ルイスが書いた本。良かったです。

『はじめてのおつかい』シリーズ。『かたあしだちょうのエルフ』。今この集会から、女性のクリスチャンがパキスタンに医療宣教に行っています。彼女が「小さい時、この本を読んで影響を受けたんです」と、私の子供がまだ小さい時にプレゼントしてくれた本。いい本です。お薦め。

先程ドブソン博士を紹介しましたが、『男の子の育て方』というDVDがあります。ドブソンさんは1年に300日以上、講演に出かけていました。他の人には「家族の時間を持たなきゃだめだ」と言いながら、自分自身は全然できてない。他の家族の事をやって、自分の家族にできないのは本末転倒。

だから、「これから講演旅行は年に2回に絞ります。」偉いでしょ。実行するんですから。

「ここで1回講演してDVDにし、思いっきりまき散らす事によって、直接行かなくてもいいようにする。」4枚くらいありますが、字幕ではなくて吹き替え。その声が、確かルパン三世の声。それが、またいい。非常に良い内容です。これは買えます。昔は16ミリの映画でした。良かった!

**Q3** 読み聞かせの他に、何かしてあげられる事はありますか?

**A** まず勧めたいのはボディタッチ。言葉が通じなくても、抱きしめられたりハグしたりで、子供たちは「ああ、受け入れられてるんだなあ」と皮膚感覚で分かるでしょう。ギュッと抱きしめてあげる。それは(何もない時もそうですが)、叱った直後がいいです。いけない事をして「ダメっ!」と叱った時、親はその子の存在を拒否したのではなく、その子がした事を拒否したんです。「した事」と「した人格」を分けて考えなければなりません。

大好きな子供が犯罪を犯したり、悪い事をした時、「それは絶対にダメ!」でも『あなたは存在したらダメ』と言ったんじゃない。あなたがした行為はダメ。だけど、それをしてしまったあなた自身の事は受け入れている。愛している。」だから、「ダメ!」とスパイク(お仕置きとしてお尻を軽く叩く)したら、直後にギュッとハグして「あなたを受け入れている」と再確認させる事が大事だと思います。

子育てで効果を上げるためには、子育てを奥さん任せ/ご主人任せではなく、チームプレーです。事。「俺は外で一生懸命働いてるんやから、子育てはおまへの仕事や!」と給料だけ持って来て、お母さんが全部するのは限界がある。特に思春期になったら、男の子はお母さんと口きかなくなります。

『男の子の育て方』の本がなぜあるのか? 男の子は12歳までは簡単です。12歳まではお父さん/お母さんはスーパーマンみたいで、それまでに大体1万回くらい質問するそうです。聞き分けが良くてシンプルで「(叱って)これっ!」「はい」で済んでるからいい。それで、12歳くらいまでは親は思うんです。「私たちの子育ては成功した。」でも、それは潜伏期。病気も潜伏期が終わるとバーンと熱が上がる。

13歳からが大変なんです。特に14歳と17歳。中学2年と高校2年。「魔の14歳」「魔の17歳」と言われる少年犯罪が多い年齢。「中2病」、聞いた事あるでしょう? 親や教師に向かってボロカスに言って、「俺、ナンボのもんや」みたいに思っている。皆さんのお子様も、素直でも、14歳になったら発病します。だから油断したら駄目です。「ウチは簡単や。」そうは問屋が卸しません。

なので、そこに行くまでに、確かな価値観というのを伝えていく必要があるのです。そのためには、お父さんとお母さんが一致している事。家族関係には親子関係・兄弟関係・夫婦関係がありますが、その中で親子関係と兄弟関係は血縁。親と子/兄弟は血が繋がっている。夫婦だけは他人です。兄弟結婚しない限り。夫婦はそれぞれ違う家庭で育っているし、性が違うし、感じ方が違う。

夫婦関係。これが1番の土台です。夫婦関係が上手くいってないと、その雰囲気は家族の中にすぐ現れる。

両親の間に表面的な取り繕いしかなくて、深いところでドンパチやってたら、子供は見抜いていますよ。その場合、家庭は居心地悪い。居たくない。だから、家庭の安らぎを代用してくれる所に行く。仲間の所。そういう仲間は、家庭が上手くいっていない人たちが集まっているので、その中に入ってしまうとちょっと難しい。余りいい影響を受けない事が多いです。

だから、絵本の読み聞かせの前に大事な事は、夫と妻が互いに愛し合うという事。

聖書の**エペソ人の手紙5章**の最後に、「こういうわけですから、夫たちよ。あなた方は自分と同じように、自分の妻を愛しなさい。そして妻は、夫のことを敬いなさい」と書いてあります。「妻は夫を愛しなさい」とは書いてない。実は男性が1番求めている事は、妻からの尊敬なんです。「あなたってかわいい」と言われるより「あなたってさすがよね」と言われる方が愛が届くんですよ。女性は「キミって強いよね」と言われるより「愛してるよ」の方がいいんです。男性に届く愛の言葉は尊敬。女性に届く愛の態度は愛。

旧約聖書の**エステル記**。これは面白い。聖書を読んでいない人は分厚いから読まないけど、読んだらめっちゃ面白い！ **エステル記**の最初に、ペルシャのクセルクセス王I世の話が出てきます。アケメネス朝ペルシャの王様で、インドからアフリカまで全部支配しました。127州。インドからエチオピアまで全部ペルシャ。今のイラン。王は、これからギリシャと戦争する前に、国民の愛国心を燃え上がらせようと大宴会をします。高貴な人たちの宴会とは別に、身分の低い人も誰でもオツケーという無礼講の、タダで食べて飲んで楽しむ宴会を7日間。「王様、気前いいなあ。王様のために働きますわ」と盛り上がっている。

この王様には非常に美人の妻がいます。ワシュティ王妃。彼女は夫を思って、「私も女性のための宴会を開きますわ。」7日間。男性は王の宴会へ。世の女性たちはワシュティ王妃が開いてくれた宴会へ。

7日目、余りにも妻が美しいので、王は皆に見せびらかしたい・自慢したいと思い、「ちょっと来てくれや」と王妃を呼ぶのですが、彼女はそう取らなかつた。7日間アルコールで酔っ払った者たちがいっぱいいる所に自分が出て行くという事は、見世物になるという事。「私はあなたの妻だけど、見世物じゃない」という意味で、王である夫が来いと言っているのに、無視して行かなかつたんです。

王の命令なのに従わないという事を皆の目の前でやった。それは、王は妻から尊敬されていない、つまり屈辱を与えられたという事。男性は何に弱いかと言ったら、屈辱を与えられるという事が1番傷つく。女性は愛されてない・道具のように扱われるという事が1番嫌。スタートはとて素晴らしい夫婦なんですよ。「7日間宴会する」と言ったら「じゃあ私も協力する」って。だけど、メッセージの取り違いで、愛さない夫と尊敬しない妻の組み合わせになった。その瞬間に離婚となって、そこから**エステル記**が始まって行く…。続きは読んで下さい。本当に深い物語ですよ。実話です。

聖書は人間をお造りになった神様のことばです。神様は人間をお造りになったので、人間の正しい取り扱いの方法を聖書の中に書きました。男が求めているものと女が求めているものは違っている。

男性は尊敬を、女性は愛を求めている。私が納得する愛し方ではなく、相手が価値ある人だという態度を取らない限り、伝えていても伝わらない。「伝える」と「伝わる」は別。伝わる愛の表現は、男性には尊敬。女性には愛。それが、聖書が言っている事です。

こう考えると読みたくなるじゃない、聖書を。続きは日曜日に集会にいらして下さい。

聖書を分かり易く話しておりますので、是非お出かけ下さいますようお願いして、質疑応答の時間を終わらせて頂きます。



